

# 3・20渋谷へ!

2011年3月9日  
5

全学連(織田陽介委員長)書記局通信

Tel 050-3036-6464  
mail\_cn001@zengakuren.jp  
http://www.zengakuren.jp/

## 沖縄基地建設阻止! 菅政権打倒! 3・20へ10日! 全力で結集を

### 【1】米帝・メア暴言弾劾! デモとストライキで菅を倒し、 辺野古新基地建設と朝鮮侵略戦争を止めよう

アメリカ国務省・日本部長であるメア(06~09年の駐沖縄総領事)の暴言を絶対に許すな! 沖縄人民の怒りと一体で、3・20に「辺野古新基地建設阻止! 沖縄米軍基地撤去!」を高々と掲げて大反戦デモを叩きつけよう! それが、エジプト・中東での革命に断固連帯する道だ。

メアの「日本人は合意文化をゆすりの手段に使う。合意を追い求めるふりをし、できるだけ多くの金を得ようとする。沖縄の人は日本政府に対するごまかしとゆすりの名人だ」、「日本政府は沖縄の知事に対して『もしお金が欲しいならサインしろ』と言う必要がある」、「沖縄の人はいつでも普天間飛行場は世界で最も危険な基地と言うが、彼らはそれが本当でない知っている」などの一語一語がすべて粉碎対象だ。前原外相辞任による菅政権打倒情勢とあわせ、「米軍基地撤去! 安保粉碎!」の決起が決定的だ。

一つに、沖縄労働者民衆の基地・戦争への怒りと闘いに対する帝国主義支配階級の憎悪そのものだ。いったい、沖縄米軍基地とは何か? それは、朝鮮戦争・ベトナム戦争からイラク戦争までの全歴史を見ても明らかなように、アメリカ帝国主義による全世界への侵略戦争の出撃拠点ではないか。アジアと日本における革命運動・民族解放闘争を軍事的に叩きつぶすための米帝支配の要としてあったではないか。



イエメンの首都・サヌア大学前での反政府デモ(3月8日)



新基地絶対反対の沖縄県民大会に9万人(昨年4月25日)

それに対し、根底的な反撃があることは当然であり100%正義だ。そしてそれゆえにこそ、新たな朝鮮侵略戦争を前にしてその闘いへ、帝国主義ブルジョアジーの立場から「ごまかし」「ゆすり」などと悪罵を投げつけているのだ。であれば、日本の労働者・学生の矜持をかけて徹底的な大反戦闘争を帝国主義者どもに叩きつけてやろう。

二つに、名護・辺野古新基地建設が15年間にわたって実力で阻止され、帝国主義侵略戦争政策に大打撃を与えていることへの恐怖だ。全学連もその最先頭で闘った基地建設実力阻止闘争が、新基地建設の迷走を強制し、「闘えば戦争を止められる」ことを証明してきた。ひとたび労働組合の反戦ストライキと実力反戦闘争が叩きつけられたならば、帝国主義侵略戦争など一秒も継続できないことを知り抜いているからこそ、その暴力的解体を狙って襲いかかっているということだ。

三つに、日本帝国主義・菅政権こそが米帝と一体となって沖縄基地建設(押しつけ)を推し進めてきた張本人であるということだ。官房長官・枝野は労働者・学生の憤激の高まりに震え上がり、「事実なら容認しがたい」などと慌ててコメントを出したが、そもそも「もしお金が欲しいならサインし

る」というのは日本政府がやってきたことそのものではないか。莫大なカネを沖縄と辺野古に投下して買収を策動し、カネの力でもって基地建設を迫ってきた歴史を知らない者は誰もいない。そして菅や前原は、あくまで辺野古新基地建設を強行することを決断していた。メアと一体で、日本帝国主義も徹底的に弾劾・粉碎されるべきなのだ。

四つに、前原辞任と今回のメア発言によって日米安保体制はますます動揺し、菅政権を打倒して朝鮮侵略戦争を阻止していく決定的なチャンスが来ているということだ。「前原辞任で5月の『2+2(日米安保協議委員会)』の段取りは不透明」(東京新聞)とあるように、辺野古新基地建設の最先兵である前原が打倒されたことで情勢は大転換している。一方で米韓軍事演習は激化されつつ、菅政権自身が統治能力を失ってグラグラになり、日米安保体制そのものが怒りの対象となっていることによって、朝鮮・中国侵略戦争体制を阻止する展望が切り開かれてきている。今こそ「米軍基地



リビアでのカダフィ打倒デモ(2月25日、ベンガジ)

撤去 = 沖縄奪還、安保粉碎・日帝打倒」の闘いを貫く時だ。

五つに、沖縄闘争の大爆発(全島の決起)は不可避だ。沖縄と断固連帯する渋谷大反戦デモとして3・20への大結集をかちとっていくことが一切の実践的結論だ。

## 【2】法大文化連盟・斎藤委員長の3・20結集アピール

3・20渋谷反戦デモへの参加を訴えます! 中東-エジプト情勢を見てください。それは、中国・朝鮮からアメリカ・ヨーロッパ、全世界にデモが広がっています。しかし一方で、それに対するアメリカの戦争策動が始まろうとしています。中東の石油利権のためです。そして他方で、首切り、賃下げ、解雇、非正規化、社会保障切捨て、増税攻撃があります。これに対し、全世界で闘いが巻き起こっています。この闘いをつぶすための戦争が今、始まろうとしています。

こういう状況で決定的なのは、この日本です。日本の反戦闘争が重要です。日米安保体制こそアメリカの軍事支配の要であり、その実態は沖縄に集中している米軍基地です。ここへ私たちは反戦闘争を叩きつけなければなりません。

いまエジプトで始まっている革命、そして闘う労働者民衆の上に爆弾を落とすということ、世界中で国境をこえて同じ課題と闘う仲間、解雇や賃下げと闘う若者たち、自分の人生をかけて立ち上がる青年・学生の上に爆弾を落とすのか、否か。これが、日本の反戦闘争にかかっています。

私たちは歴史の分岐点にいます。だからこそ、戦争を押し進める菅政権を打倒しよう。アメリカとともに沖縄に基地をつくらうとする、沖縄県民の怒りを踏みにじって基地をつくらうとする菅政権を打倒しなくてはならない。

「沖縄新基地建設阻止! 朝鮮侵略戦争阻止! 菅政権打倒!」。これが3・20デモのスローガンです。3・20デモで、私たちが社会を運営するんだということを、エジプトの民衆のように示そう。私たち学生・労働者、現実に生産を担う労働者と、未来を担う私たち学生が団結して闘えば、社会は運営できるとエジプトは示しました。あの闘いを日本でやろう!

もう一つ、重要なことがあります。それは、法大闘争勝利のために倉岡さんへの新たな処分を阻止することです。ここに社会の縮図があります。倉岡さんは、なぜ処分されようとしているか? 大学の金儲け主義に反対したら、大学



から追放されようとしている。これは、自分たちをモノとしてしか扱わない会社に反対した労働者が、首を切られるのと同じ関係にあります。みなさん! ここで私たちは勝たなくてはならない。3月15日、人間環境学部から倉岡さんへの「呼び出し」があります。3月14日と15日の連続法大包围デモにぜひ集まってください。

倉岡処分阻止の意味は決定的に大きい。エジプトの巨大な決起も、ムバラク政権の弾圧をのりこえたときに始まりました。倉岡さんの処分を阻止すること、この5年間で118名もの逮捕者を出しながら実力で闘い続けた法大闘争を勝利させること、その先に日本における「俺たちのエジプト」があるのです! これが、3・20のもう一つの大焦点です。

いま本当に痛ましい事件がいっぱいあります。自殺者が3万人をこえて増え続けている。先日は、就活に失敗した学生が広島でバスを横転させて14人を巻き込んだ。このような怒り、解雇や親の介護、そういうことが一体でのしかかってくるこの社会で、闘う私たちがいるんだということ、3月20日に渋谷で、5000人、1万人、いや100万人の大デモで示そう! みなさん、ともに闘いましょう!

3月15日の人間環境学部教授会から倉岡さんへの「呼び出し」によって、3・20闘争と4月新歓つづしのための新たな処分が狙われていることに対し、連日の弾劾門前闘争、そしてキャンパス内での1年生の決起が叩きつけられています。3・14-15の連続法大包围デモ(「06年3・14」5周年闘争)と3・20渋谷反戦デモの爆発が決定的だ。法大・首都圏を中心に全力で決起しよう!

## 【3】倉岡さんへの新たな処分阻止！ 3・14-15連続デモへ

### 門前での倉岡さんのアピール

みなさん！法政大学当局がまたしても私に追加処分をしようとしてきています。法政大学の言い分は、もはや「キャンパス利用規則違反」ですらありません。「授業準備妨害」などというデタラメな口実をつくって、「とにかく学生は理事会の決定に黙って従え」と迫ってきているのです。



こんなことが許されていないはずがない！追いつめられているのは、法政大学です。法大当局は結局弾圧してガードマンを増やすことしかできない。正門を半分閉めることしかできない。これが法政大学の姿です。大学・教授会・理事会という巨大な組織は表面上だけで、中身はカラッポ。処分の正当性すら説明できない。彼らの「正当性」とは、理事会

の決定のみです。理事会の決定だから従うしかない。しかし、私たちは断固理事会の決定を認めない。大学の主人公は学生であり、学生は一人一人声を上げることができる存在です。私たちはサービス受給者ではありません。自らの力で考え行動できる、腐りきった教授のように「理事会決定」で正当性を担保するのではなく、私たちは自らの行動と意思で正義性を主張します。

この不当な処分をあらゆる手段で絶対に阻止する。その力は法大生の中にある。みんながピラを受け取りメッセー



飯田橋駅前での3・20への大結集を訴える倉岡さん(3月8日)

ジを書くという決起が、理事会の意思を覆していく。

この処分は私だけの問題ではありません。この4月以降、例えば飲酒全面禁止によってお酒を飲んだだけで処分が下されていきます。いま法大生一人ひとりがつながっていくことが求められています。年間の自殺者が3万人をこえる中で、大学生の自殺者が2倍に急増しています。その一番の理由は就職難です。

そして今、大学生の「事件」が多発しています。この学生の怒りは必ずエジプトのように爆発します。それを法大当局が一番恐れています。

一緒に声を上げましょう！法大包囲デモで、そしてこの社会全体を変革していくために3・20の渋谷反戦デモに立ち上がりましょう！勝負は敵との力関係です。向こうが処分に手をかけてきている、ここで処分が阻止できるかどうかの正念場です。ともに闘おう！

## 【4】三里塚第二次現地行動が成功裡にうち抜かれる

3月3～4日、昨年12月に続く三里塚第二次現地行動が、全国から20人をこえる学友の結集によって行われた。その先頭に法大生がたった。現地調査と援農によって、反対同盟との団結はさらに強化され、参加した全員が3・27全国総決起集会を突破口とする三里塚闘争のさらなる発展と学生運動の爆発を誓った。3・20-27の爆発が、4月新歓闘争&5月沖縄闘争にとって決定的だ。参加者の感想の紹介です。

### 法政大学1年生・A君

「三里塚が日本で一番勝っている場所だ」と言われています。僕は法大キャンパスで最先頭で闘い、2月の大学当局や親からの「処分-退学」攻撃もすべてはね返しています。だから、僕はもしかしたら「日本で一番勝っている学生」なのではないかと思います。

今回三里塚ですごく重要なことを学びました。法大と三里塚で起きていることは、実は同じじゃないのか。キャンパスで周りの学生にそう言っても、「大学生にとって大切な

のは単位・就職のこと。一方で農民は、凶作・不作とかが重要でしょう」と問題を分けて考えてしまう。ここには、資本家の思うつぼというか、資本家の策動があります。つまり、国家の問題を分断して考えさせなくする。

これが続くと、一生革命は起こせないし、いつまでも僕



反対同盟事務局・北原鉦治さんを囲んで

市東孝雄さんの畑の中、「星の木」の前にて



たちは奴隷のままです。しかし、実はこのままでは私たちは、労働運動は終わらないんです。皮肉にも資本家から、恐慌などでその前提を崩してくる。大学では、学費高騰やビラがまけなくなる、規制も強まる。農家にも、三里塚への空港建設やTPPによる農業破壊。これらの問題の原因は実は一つ、資本の論理のせいじゃないか、資本の論理が破産しているからこの問題が起きているのではないか。農民・学生・労働者の目の前で起きている問題を個別ではなく一つの問題として捉える。そこが重要だと思います。

それが団結につながる。マルクスの『共産党宣言』や『資本論』でも、資本主義の危機が深まれば深まるほど逆に労働者の団結は強まる、と。その労農学の連帯と団結が生み出したものが、国鉄闘争、沖縄闘争、法大闘争、そして三里塚闘争だったんじゃないか。

今日の現地調査ですごく衝撃を受けたのは、芝山町・菱田で集団移転した農民たちの家です。闘争をやめるかわりに与えられた家がむちゃくちゃ豪華。これが団結が破壊された結果なんじゃないか。いい家はもらっても、これじゃ一生資本を倒せないし、根本は変革できない。この人たちだって、いつ戦場にかり出されて戦争の被害を受けるか分からない。これが団結しなかった結果じゃないか。

一方で、僕たちは国鉄・沖縄・法大・三里塚という大きいものを生み出しているし、国家権力や資本は団結を力によってつぶせない、一つの農家すらつぶせない状況に追い込まれている。農民の闘いで、国策としての空港が完成しない。この資本の破産を団結によって引き出した。これはすごく大きいと、三里塚に来て学ばされました。団結こそが資本を苦しめ、最終的には破滅に導く最大の武器だと三里塚でつかめました。だから、「三里塚は日本一勝っている」。三里塚でも法大でも沖縄でも本質は同じである以上、ここで学んだことはどこにいても通用する。三里塚でつかんだ

ことを3・20渋谷大結集と4月新歓へそのまま持ち込んで、最大限活かしたい。

## 京都大学2年生・B君

僕は「資本主義が絶対だ」と思っていました。僕はよく「夢は終わらない」と言いますが、普段の生活に戻れば「資本主義でもいいんじゃないか」というところがあって、怒りが湧いてこない部分がある。資本主義を前提にしてしまうところがある。

しかし僕は今この場で、自分の「温厚」というイメージを払拭したい。僕にも怒りってというのが実はあって、北原さんもおっしゃったように、今の学校や教育というのはまず社会の現実を見せない。今を勉強するのが学問であるはずなのに、過去からさかのぼって、今はぜんぜん見せない。今を見つめて勉強しなければならない。なぜ今、未来も希望も描けない世界になっているのかという問題意識が入らないとやっぱり無理なんですよ、勉強ってというのは。続かないしやる気が湧かない。

自分の中で「どうなっているんだ」というもやもや感がずっとあって、でも今回三里塚に来て分かりました。北原さんがおっしゃるように、希望なんですよ。夢は終わらないということからすべてを捉える。夢は終わらないということ、常に相手に向けて発信していく。やっぱり、法大で新しい1年生が出てきたときに「これでいいんだろうか」と思います。僕だけ温厚な顔をして普通に生活していて、これでいいのか、と。いい意味での「焦り」が生まれてきて、怒ってもいいんだ、堂々と切り切ればいいんだと。

今まで自分を抑圧してきたということがあり、大学受験なんかそれで、それをなんとかのりこえたいというのはあったんです。常に「夢を追いかけている」と堂々と言いたい、と。三里塚の人が闘いを貫いた結果、あんなに明るい顔をしている。こっちのほうが絶対に正しいと思いました。

歴史というのは人間の意志が作ります。人間の意志でどうにでも変えられる。資本主義の前提である「賃労働と資本」のかわりに、僕は共同性の中における人間主体の無限の可能性にかけたい。80歳をこえて闘う北原さんを見て、本当にも革命をやりたいと思う。そういう気持ちが湧いてきます。直接会ってみて、「この人とともに頑張りたい」と。やっぱり人間の共同性はすごいし、怒りは共通です。本当に北原さんの世代がつくってきたこの世界を僕たちが引きつぎ、新しい人たちに受け継いでいく。そういう人類の偉業を三里塚でひしひしと感じます。3月20日渋谷と27日全国総決起集会に向けて頑張ります！

**【5】3・20賛同 - 活動家形成 - 組織建設を軸に全力で10日間の組織戦(オルグ戦)を押し進めよう! 残る10日間でさらに情勢を一変させ巨大な学生決起をつくり出すことは、必ずできる。**